

2017 カトリック札幌地区

# 平和を祈る 10 日間 写真速報

平和旬間実行委員会 2017・8・29



教皇ヨハネ・パウロ二世は、36年前の広島平和アピールの中で「国境や社会階級を超えて、お互いのことを思いやり、将来を考えようではありませんか」「再び戦争のないように力を尽くそうではありませんか」と訴えられた。これに応え、広島原爆投下の8月6日から8月9日の長崎原爆投下をはさみ、太平洋戦争敗戦に至る8月15日までの10日間を「平和旬間」と制定し、平和を求め、具体的な行動を実践していく期間としています。

札幌地区では毎年この間に平和講演会、平和祈願ミサ、平和行進などを行っています。

## 平和講演会

8月5日(土) 14:00～ 参加者90名

「やんばるからの伝言」～基地のない沖縄を希求して～

お話し 伊佐育子さん(ヘリパットいらない住民の会)



- 闘いの当事者であり、名護教会・信徒でもある伊佐育子さんをお迎えし、実際の状況・体験をスライドを交えてお話しいただいた。
- オスプレイの低周波音が、建物や人の内臓を揺らす。不安と怯えを植えつけられた子供たちは夜泣きや発熱など、その健康被害は身体だけではなく心理的にも深刻である。
- 「豊かな森で暮らす住民たちが、普通の平穏な暮らしを求め、非暴力での座り込みを行った。
- 国は私たち住民を「通行妨害禁止仮処分」で裁判にかけた。「あなたたちは日米安全保障体制の犠牲になりなさい。子どもや生活を守るためにやっていることは日米関係にヒビがはいり信用をなくすので日本のためにならない」との理由であった。
- ヘリパットの工事費が6億から94億となり、皆さんの税金が沖縄でアメリカのために湯水のごとく使われている。だが米軍が私たちを守ってくれる保障は一切ないことを知ってほしい。
- 沖縄の破壊は今が初めてではない。地上戦があった沖縄の闘いは今も続いている。たかが四つのヘリパットを造られたぐらいで終わりではない。北海道が高江になる可能性がある今こそ、手をつなぎ平和のため、声を上げ、あの憲法を輝かせていこう。



## 平和祈願ミサ

8月15日(火) 18:00～

カトリック北一条教会

司式・説教 勝谷 太治 司教・司祭団

参加者 200名



=説教から=

私たち信仰者は紛争の正当性がどちらにあるかという議論ではなく「小さくされている人々の痛み

に共感する」福音の心に根拠を置くのである。テロも正当な戦闘行為も被害者からは、ある日突然に命を奪われた理不尽さに変わりはない。むしろ、被害の悲惨さと苦しみに共有し、原因となった戦争自体を二度と起こさないと決心し、不戦の理念を掲げた憲法を受け入れることである。戦後70年以上を経て戦争を観念的に捉えることに懸念を感じる。日本が世界に先駆けてそれを実感し宣言している唯一の国であることを忘れないでほしい。今こそ現代世界憲章でうたわれ、フランシスコ教皇が述べられた戦争そのものを否定する「積極的・創造的・非暴力」の考え方が平和の実現のために今後の時代を導くものと確信する。



## 平和の折鶴奉納

ミサの中で道内各教会・修道会の平和の折鶴が奉納され、たくさんの折鶴は「広島平和公園」「長崎原爆慰霊碑」「沖縄・平和の礎」に送りました。

ミサ献金 75,400円は、高江のオスプレイ離着陸の建設反対に取り組んでいる「ヘリパットいらぬ住民の会」に送りました。

## 平和行進

8月15日(火) 19:20～

参加者 80名

北一条教会から大通公園まで、メッセージボードとペンライトを掲げ、皆で心をつにし「共謀罪は今すぐ廃止！ 安保関連法は今すぐ廃止！ 辺野古・高江に基地をつくるな！ 平和憲法を護ろう！ 地上から核兵器をなくそう！ 原発をなくそう！ 外国人の権利を守ろう！」などをコールし平和を訴えた。

大通公園ではプロテスタントの皆さんと合流。一緒に讃美歌をうたい、祈りの交流を持ち、お互いのメッセージを読み合い、ともに神の平和の実現のため働くことを誓い合った。

